

「(仮称)心のバリアフリーハンドブック」及び「(仮称)情報バリアフリーハンドブック」に係るヒアリングについて

1 ヒアリングの目的

「(仮称)心のバリアフリーハンドブック」及び「(仮称)情報バリアフリーハンドブック」の改定に当たり、障がい当事者やその家族が抱える「心のバリア」や情報を取得するために求める対応等についてご意見を伺い、各ハンドブックに反映させていくため。

2 対象者(案)

- ・福祉のまちづくり推進協議会委員(市民)
- ・委員の推薦する市民
- ・情報保障支援団体(点訳、手話通訳など)

3 調査の方法

訪問等によるヒアリングを行う。その際に、ハンドブックの改定についての概要と「心のバリアフリー」や「合理的配慮」などの用語説明も合わせて行う。

4 スケジュール

協議会終了後、各団体と日程調整を行い、12月中に実施。

時期	内容
12月頃	・当事者ヒアリングの実施
2024年 2月頃	<第3回協議会>
	・各冊子の骨子案について ・市民意見募集等の予定(2024年度実施)について
2024 年度	<第4～6回協議会>
	・骨子の確認、市民意見募集 ・素案の作成、確認 ・答申

5 調査項目(案)

(1)心のバリアフリーハンドブック

【Q1】「心のバリア」を感じる時はどのような時ですか。

【Q2】「心のバリアフリー」に関して、周りの人にどのように行動(対応)してほしいですか。

【Q3】「声かけ」について、どのようなときに声をかけてほしいですか。
また、声をかけてほしくないときはどのような時ですか。

【Q4】日常生活の中で、困った場所・場面(※)はありますか。

(※)近くのお店、電車・バス・タクシー、道を歩いている時、大きな施設、勤め先や
学校・通所先 など

【Q5】日常生活の中で、店員さんの接遇や対応がよかったなど、嬉しかった対応はありますか。

【Q6】施設の整備環境や接遇がよかったと思う市の施設はありますか。

(2)情報バリアフリーハンドブック

【Q1】次の場面で、どのような媒体(口コミ、新聞や広報誌、テレビ、ラジオ、インターネットなど)で情報を得ていますか。

- ①市からのイベントや催し
- ②地域で行われているイベントや集まり
- ③興味のある場所や施設の情報
- ④目的地までの経路
- ⑤その他興味のあることの情報

【Q2】Q1だけではうまく得られない・知ることができない情報はありますか。

【Q3】Q2について、もっとどのような媒体があれば情報が得やすくなると思いますか。

【Q4】情報が入手しにくく不自由していること、不足していると思うことはありますか。

【Q5】Q4について、どうしてそのようなことが起きるのだと思いますか。

【Q6】情報を得やすくする工夫や情報の不自由を減らす工夫をしていますか。
している場合は、具体的に教えてください。

【Q7】パソコンとスマートフォンそれぞれどれくらいの頻度で使用していますか。

<パソコン>

- ①毎日
- ②週に2~3回
- ③月に2~3回
- ④ほとんど使っていない
- ⑤使っていない

<スマートフォン>

- ①毎日
- ②週に2~3回
- ③月に2~3回
- ④ほとんど使っていない
- ⑤使っていない

【Q8】パソコンとスマートフォンそれぞれを使う時、よく見るサイトやよく使うアプリは何ですか。

(例)インターネット(ホームページやニュースのページ)、メール、LINE、Facebook、Instagram、X(旧 Twitter)、その他(具体的に)

【Q9】パソコンとスマートフォンそれぞれを使うとき(使いたいと思うとき)、どのような工夫や取組、支援があるといいと思いますか。